

**保健師職能委員長あいさつ**

原口 浩美（愛知県津島保健所）

世界的な健康危機管理事案である新型コロナウイルス感染症の対応が、2年以上続いているところです。すべての保健師はそれぞれの領域において、新型コロナウイルス感染症の最前線に立ち、対応に日々奮闘されていることと思います。

そして、これまで誰も経験したことのない「災害」とも言える状況の下、心身共に緊張する中で長期間働き続けているのではないかと思うのですが、ぜひ御自身のお身体についても大切にしてくださいと願っています。

さて、今年度の看護協会保健師職能委員会は、新型コロナの波の間を縫いながら、「産業保健におけるメンタル休職者への対応」や、「周産期メンタルヘルスケアと妊娠・出産子育ての切れ目のない支援」の研修や交流会、また、保健師力のスキルアップを目指した、「アセスメントにおける保健師の視点」の研修を事例検討の演習を取り入れながら開催してまいりました。

すべてオンラインの研修であり、思いがけないトラブルにたくさんの汗を流しましたが、講師や参加者の協力をいただき、無事に開催することができました。あらためて感謝申し上げます。また、この積み重ねのおかげで委員会のチーム力がアップし、楽しく活動をさせていただくことができました。

愛知県看護協会は新会館建設が令和6年度のオープンに向けて始動しました。とても素敵な会館が出来上がる予定です。多くの保健師に会館を利用していただき、スキルアップにつながる活動を続けていきたいと思っております。皆様もぜひご協力ください。

**【保健師職能委員会研修会報告】 令和3年8月22日（日）13:00~16:30**

オンライン研修 参加者:18名

**「アセスメントにおける保健師の視点とは~事例検討を通して~」**

&lt;講師&gt; 中板 育美(武蔵野大学看護学部 教授)

佐野 信也(医療法人社団弘善会ふじみクリニック 医師)

&lt;事例提供者&gt; 和気 美奈(名古屋市南区北部いきいき支援センター 保健師)

新型コロナウイルス感染症が拡がり始めた令和2年2月急遽中止となったこの研修。感染が収束しない中での実施方法を模索し Web 会議アプリ Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用して実施しました。実践力UP 事例検討の進め方を中板育美先生から、事例提供者と職能委員が事例検討会の情報整理まで、その後をグループ分けされた受講者とファシリテーターが引き継いでアセスメントから支援の方向性や役割まで検討、グループ発表、講評と解説を佐野信也先生からいただきました。

基本の事例検討を新しい形で試みた研修会となりました。



愛知県看護協会では、教育委員会始め9委員会、13地区支部に、保健師が委員や幹事として入っています。保健師としての知識や視点を活かして活躍中の方々から、活動の紹介や看護師はじめ多くの職種や組織の方と協働する中で得られた経験等を伺いました。

## 地域包括ケア推進委員会の活動

三浦 里美さん

地域包括ケア推進委員会 委員長  
(東浦町障がい支援課 課長)

地域包括ケア推進委員会では、地域包括ケアシステムの推進に関する事業を行うことを目的として研修会や交流会などの企画・運営などの活動を行っています。

以前の高齢福祉担当では、地域包括ケアの構築を始めたところだったので、何をどうすればいいのかと模索しており、看護協会の研修等を受けて業務の参考とさせていただきました。現在の障害福祉分野では、取り組むべき課題が山積していると感じています。

委員になってからは、病院と訪問看護の看護職などの医療と介護の専門職だけでなく、地域での多職種や支援者との連携の必要性を改めて感じています。この委員会を通じて、委員や講師の方と新たな出会いで、所属の業務でも関わることもありました。

地域包括ケアでは、保健師として関わる範囲は広く、保健師だからできること、期待される役割について、この委員会を通じて実感しております。参加するだけでなく、委員として関わったことで、看護協会だからできる活動があるとわかり、やりがいを持って取り組んでいます。

## 名古屋西地区支部の活動を通して

鈴木 愛さん

名古屋西地区支部 支部幹事  
(名古屋市中村区保健福祉センター福祉部福祉課 主査)

本年度、愛知県看護協会名古屋西地区支部では「ACPの推進」「健康増進・啓発活動の実施」「災害支援活動の強化」を目標として活動しています。新型コロナウイルス感染拡大防止により、対面型の講演会や検討会は延期となりましたが、オンラインによる、病院・訪問看護ステーションのACP連携をテーマとした検討会や県民公開講座の開催など、新たな方法を工夫しています。

本年度、初めて看護協会の委員として、様々な看護職種の方と活動する機会をいただきました。この活動を通して病院、地域で果たす役割や各機関の強みを学ぶとともに、「人を看る、人に寄り添う」看護の視点は共通だと感じています。ACPの推進は、病院、地域の多職種が連携し、患者本人やご家族の言葉のピースをつなげることが大切です。看護職が持つ共通の視点は、今後ACPの取り組みを進める上でも大きな強みであると考えます。

今後も病院、地域の支援機関との連携を図り、保健師として地域の健康水準の向上につながる取り組みを進めていきたいと思っております。



## 地区支部活動から得たもの

小澤 有伽さん

海部地区支部 支部幹事  
(蟹江町保健センター センター長)

海部地区での活動は、ACP 推進と災害応援ナースに関するテーマに取り組んでいます。両テーマとも、今注目されている重要なテーマです。委員会は、看護部局長、助産師及び保健師で構成されています。オンライン会議や病院内（普段伺う機会のないような場所）での会議で打ち合わせを重ね、講演会など実施しています。

その活動の中で、管轄区域内の医療従事者である委員の方々との出会いはとても貴重なご縁です。偶然にも、担当しているコロナワクチン接種業務で委員の方と連絡を取り合うことになり、おかげで業務をスムーズに進めることができました。また、委員会での看護の現場のお話を伺うと、視野が広がります。

今後の保健師活動のためにも看護協会がくれたご縁を大切にしたいと思います。

## 地区支部活動を通して感じたこと

鈴木 理香さん

西三河南部東地区支部 支部幹事  
(岡崎市保健所健康増進課 係長)

私は行政保健師として、これまで成人保健や母子保健を中心に配属され、特にこの7年間は母子保健業務に携わっていました。

そのため、愛知県看護協会の地区支部活動としてACP（アドバンス・ケア・プランニング）を推進するための講演会を企画する際には、「ACPって何？」と思うぐらいに最近の医療現場の動きに疎い状況でした。準備に際しては、「ACPの推進には、当事者だけでなく家族も含めたまわりの理解も必要」との考えから、一般市民向けに開催することとなり、チラシの設置場所の選定では、市民が集う施設情報など日頃の業務の経験が役立ちました。

看護協会の活動に関わることで、担当業務以外の分野の近況を知る機会にもなり、「地域を診る」という保健師活動に繋がるものだと感じました。



## 保健師職能委員会

草田 怜美さん

保健師職能委員会 委員  
(名古屋市南区保健福祉センター福祉部福祉課 主査)

保健師職能委員会では、職能として交流や研修会を通して、つながりや自己研鑽ができるよう活動しています。様々な分野で活躍されている保健師同士顔の見える関係を構築し、連携ができる活動や研修会等を企画しています。

私が保健師職能委員となった時期は新型コロナウイルス感染症の第1波の頃でした。現在は第6波を迎えています。当初は委員会や研修会の中止が余儀なくされましたが、保健師職能委員会としても感染対策を図った上での企画を開始し、オンラインでの研修会にグループワークやハイブリッド形式を取り入れる等工夫を行いました。

これらの主催者側に加わらせていただいた経験は、自らの職場での研修会や会議の開催に役に立ちました。このように委員としての経験が自分の仕事にもつながっています。今後も視野を広く持ち、新しい課題に対応できるようにしたいと思います。

【交流会報告】令和3年12月2日(木) 14:00~16:00 オンライン研修 参加者:31名  
「産業保健におけるメンタル(発達障害を含めた)休職者の対応」

令和3年度の交流会は、医療法人明心会 仁大病院の舟橋利彦先生に、労働者のメンタルヘルス不調を未然に防止する目的で制定されたストレスチェック制度についての詳細から、メンタル不調による休職者の復職の対応についてまで、産業保健におけるメンタル対応の基本となる内容をご講演いただきました。

「働くひと」の心の健康には予防的なケアから不調者へのサポートさらにその周囲の方まで包括的なケアが求められており、関係者が連携をとることの大切さを学ぶことができました。心の健康には、社会情勢が大きな影響をもたらすものであり、現状のコロナ禍においては、相手に寄り添った対応が必要であると考えさせられました。

交流会の最後には、参加者の方より、現在進行形で対応されているケースについてのご質問をいただきました。舟橋先生より、具体的な対応について御説明をいただき、参加者の多くが共感、納得できる内容でした。

今回、参加いただいた多くの方より、メンタルヘルス休職者への対応を学ぶことができ有意義であったとのご意見を頂戴いたしました。産業の職場では一人で対応に苦勞されている保健師も多いと思いますが、今回のような交流会を今後も企画開催し、一人でも多くの保健師活動に貢献できればと思います。

～ 保健師会員募集中!! ～

令和4年度会員を受付けております

愛知県看護協会は、看護職の職能団体です。会員数は40,364名そのうち保健師の会員数 604名

(令和3年12月31日現在)

看護協会では、保助看の看護職が各専門性を発揮しつつ安心して働き続けられるように環境づくりを検討したり厚生労働省とコミットした活動を実施しています。地域包括ケア推進のために愛知県看護協会地区支部では、看護職間の連携に取り組んでいます。様々な部署で働く保健師間での勉強会も開催しています。

行政で働く保健師さん！  
企業で働く保健師さん！  
病院で働く保健師さん！  
福祉で働く保健師さん！

看護協会に入ってよかった！

皆さまの加入をお待ちしています。未加入の方にお声をかけていただき、仲間を増やしましょう。

～ 看護職賠償責任保険制度 ～

日本国内の行政や事業所で保健師が行う業務によって、他人の身体や財産に損害を与えたり、人格権を侵害したため、法律上負担しなければならない損害賠償責任を保証します。保障は法律上の損害賠償金の他、弁護士報酬等の争訟費用も補償します。

こんな時のために・・・

- 訪問先で、うっかり物を破損してしまった
- 相談者との面接で、名誉を傷つけられたと訴えられた
- 運動指導で、参加者が転倒しけがをした

日本看護協会会員だけが加入できる保険制度  
詳しくは看護協会へお問い合わせください。

<愛知県保健師職能委員>

原口浩美、佐藤かおり、草田怜美、山本ありさ、半田裕子、小池直子

<担当理事>

和久田月子



★編集後記★ コロナ禍の中、感染者や接触者への対応、ワクチン接種の実施等、私たち保健師は求められ多忙を極めていると思います。委員会ではコロナ後も見据え、基本を大切にしながら発展的な活動ができるよう心掛けました。本情報誌作成にあたり御協力頂きました皆様に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

半田 草田